

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助実習Ⅱ Practicum in Fieldwork of Social Welfare Ⅱ		2年	前期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
3単位	実験実習		選択 (社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
相談援助実習Ⅰ・相談援助実習指導Ⅲ (左記2科目の実習あるいは単位取得を経て、相談援助実習Ⅱの実習を許可する)				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大熊 信成・山田 昇	福祉棟3F	火～金9:00～17:00 (授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
社会福祉士の国家試験受験資格を目標に現場実習を通して、社会福祉専門職(相談援助)として仕事をする上で必要な知識や技術など授業科目において学んだことを活用し、相談援助の全体像を把握する。「相談援助実習Ⅱ」では、職場における実習指導者の職種の位置づけと業務内容を全般的に理解することをめざす職種実習と実習指導者の専門性を現しているソーシャルワーク実践の実態を理解し、実習生自らがソーシャルワーク実践を試行することをめざすソーシャルワーク実習を行う。				
授業の到達目標				
①相談援助職の業務の実際を学ぶことができるようにする。 ②相談援助職と他職種との連携を学ぶことができるようにする。 ③対象者理解に努め、アセスメントを行えるようになることができるようにする。 ④さまざまな相談援助技術について、学内で修得したことを実践的に確認し、その中でも基礎的な技術について習得できるようにする。 ⑤社会福祉士として求められる資質・技能・倫理を習得し、現場実践の臨床研究の出発点とすることをできるようにする(臨床実践につなげる)。				
授業の方法				
社会福祉施設及び機関での相談援助実習(三週間実習)				
学習の成果				
①相談援助の業務を知ることができる。 ②他職種との連携を学び、実習中の連携場面における内容や必要事項について理解することができる。 ③利用者のアセスメントを行えるようになる。 ④社会福祉士としての資質・技能・倫理の習得を完了する。 ⑤自らの臨床実践や個人あるいは複数での事例研究に取り組むことができる。				
授業のスケジュールと内容				
配属された各施設・機関において144時間以上18日間の実習を行う				
・配属先は、実習生の希望と居住地、実習計画を参考に実習生が選択し、教員と相談の上、決定する				
・実習中は実習指導者の指示に従う				
・記録を毎日作成し、期限までに実習指導者へ提出する				
・利用者の個別の課題を理解すること				
・日課やプログラムを把握すること				

・作業や就労に対する支援を理解すること		
・自立生活のための課題を理解すること		
・職員の専門職としての倫理を理解すること		
・職員の利用者に対する相談援助技術を学ぶこと		
・社会福祉施設や機関の管理及び運営の効果的な方法を理解すること		
・社会福祉施設や機関を中心とする地域ケアシステムを理解すること		
・スーパーバイザーとしての役割を明確にすること		
・自己のパーソナリティなど、自分の特徴を把握しておくこと		
・知り得た個人情報を絶対に漏らさないこと		
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容(態度含む)		
その他	100%	出勤状況、実習態度、実習巡回指導、実習指導者の評価、記録などにより総合的に判断する
教科書と参考図書		
教科書：ミネルヴァ社会福祉士養成テキストブック「相談援助実習」川延宗之他/ミネルヴァ書房(相談援助実習指導Ⅰと同様)		
履修上の心得・ルール		
実習生としてのマナーやルール、実習に適した身だしなみを順守し、実習に臨むこと。		